

小樽南ロータリークラブ会報

ホームページ <http://rid2510.org/otarusouth/>

13
2013年10月5日発行

昭和35年2月5日

●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500

●2013-2014年度 Rotary International テーマ



Engage Rotary Change Lives

「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」

ロン D. バートンRI会長

強調事項 RI第2510地区 安孫子 建雄 ガバナー (江別RC)

- ロータリーの基本を見つめ 変革するロータリーを实践しよう
- 「RIテーマ<ロータリーを实践し みんな豊かな人生を>の理解を深めクラブと地域そして世界で活躍するロータリアンになろう」

●今週10月5日(土)のプログラム

◎小樽RC創立80周年記念式典・祝賀会
16:00～記念式典登録開始 16:30 点鐘
場所 グランドパーク小樽

●来週10月11日(金)のプログラム

◎臨時総会(次期役員指名委員会)
◎夜間例会報告
「地域に伝えたい小樽南ロータリークラブの魅力」
B卓: 廣瀬会員 C卓: 湊会員 D卓: 大淵会員 F卓: 山田(正)会員

●再来週10月20日(日)のプログラム

◎地区大会
江別市民会館

●第12回例会報告 9月27日(金) 「日本を取り巻く海的情勢」

■ロータリーソング ■ 「日も風も星も」

■ビジター・ゲストの紹介 ■

谷川 淑郎氏 (余市RC)
村上 玉樹氏 (第一管区海上保安本部本部長)
近藤 祐一氏 (第一管区海上保安本部総務部庶務係長)

■会長報告 ■ 吹越会長

・9月24日花園グリーンロード桜の会「植樹祭」に参加して参りました。例年花園小学校3年生が主体となって「植樹」をおこない、八重桜3本の植樹に手伝ってまいりました。

■幹事報告 ■ 山村幹事

- ・来週の例会は振替となっております10月5日(土) 小樽RC80周年記念式典祝賀会 点鐘16:30 場所: グランドパーク小樽で開催されます。ご出席会員の皆様方お間違えの無いようお願いいたします。
- ・小樽市敬老のつどいの協賛お礼と報告書が届いております。
- ・北照高校野球部全国大会出場支援へのお礼状が届いております。
- ・11/17(日)開催の絵本・児童文学研究センター創立25周年記念第18回文化セミナーのご案内が届いております。

■委員会・同好会報告 ■

◎新愛耐会 廣瀬会員

・5年目を迎えて総会を開き、継続という結論になりました。あらためて入会を募り今日現在12名の参加をいただきました。

◆初回会合のお知らせ

日時 平成25年10月1日(火) 午後6時30分～
場所 「晴々」花園1-11-24 TEL 34-1708

会費 ¥3,000

※門戸を開いております!ご希望の方はお知らせ下さい。

◎見延国際奉仕委員長よりゲストスピーカーのご紹介

ロータリーの国際奉仕活動の究極の目的は国際平和の維持推進を図る事、と云われています。

そこで、①日本を取り巻く国際情勢がどう変化しつつあるのか、②それに対し(私達には普段見えにくい海での活動をしている)海上保安庁がどう対処されているのか等に就いてもっと認識を持つと同時に、海保職員に感謝の気持ちを込めてエールを送り、安全安心、平和の維持に努めて貰うことこそ、大切な国際奉仕活動ではないかと考え、村上本部長さん講演をお願いした次第です。



■出席委員会 ■

・平成25年9月27日

会員総数 69名 本日の欠席者 17名
荒田、石上、角野、山田(正)、福島、前川、坪井、高木(成)、野村、鈴木、廣部、斎田、佐藤(友)、坪井、富永、村越、米山

・平成25年9月6日

会員総数 69名 出席摘要免除者数 16名
病欠者 0名 出席計算員数 名
ホーム欠席者数 0名 メーキャップ数 0名
純欠席者数 0名
確定出席率 夜間例会につき 100%

■メーキャップ ■

米山、唐橋、新倉、西、荒田(会長会)
小笠原(小舅の会)
福島、佐藤(友)(小樽RC)

●例会プログラム

日本を取り巻く 海の情勢

第一管区海上保安本部本部長

村上 玉樹 氏

本日は、小樽南ロータリークラブの皆様にお時間をいただき、たいへん光栄かつ有難く思っております。

海上保安庁は、終戦後、日本周辺海域では多数の機雷が残り、航路標識の破壊、密輸密航が横行する無秩序状態であったことから、これらの課題に対処するべく昭和 23 年 5 月に発足し、現在までに外洋での救難対応や管轄水域の拡大等の時代の要請に応じた体制整備を行い、必要な対応をとって参りました。

我が国の国土は 38 万 km^2 ですが、海については、領海と排他的経済水域を併せると合計 447 万 km^2 で世界第 6 位の広さとなります。

海上保安庁では、この広大な海を守るため、全国を 11 の管区に分け、その勢力は巡視船艇 355 隻、航空機 73 機、定員は 13,000 名弱、予算は 1,800 億円の規模となっています。

海上自衛隊と比較しますと、海自の年間予算は海保の約 6 倍、職員数は約 3 倍と大きく、海自は、勢力を拠点配備して大型船を多く保有するのに対し、海保は、海の警察、消防として、海自の約 3 倍の船艇を分散配置しております。

尖閣諸島の警備については、昭和 43 年に周辺海域に石油資源が埋蔵されている可能性が指摘されて以降、中国の漁船や活動家が尖閣諸島領海内に度々侵入する事案が発生し、とくに平成 22 年 9 月の中国漁船による公務執行妨害被疑事件（衝突事件）発生以降、中国公船等の領海侵入が激しくなり、更に平成 24 年 9 月の尖閣諸島国有化以降は、常態的に中国公船が周辺海域を徘徊し、平均すると 6 日に 1 度の頻度で日本の領海へ侵入しております。

平成 25 年 7 月には、中国の海洋行政部署・法執行機関にかかる機構改革が行われ、海警、漁政、

海監、海関等の各機関がそれまでバラバラに活動していましたが、この改革により中国海警局が発足して一元的に運用するなど着々と体制が整ってきております。

海上保安庁では、尖閣諸島周辺海域の領海警備に万全を期すため、5 隻程度で徘徊する中国公船に適切に対応することとし、地元が力に足りない現在は、全国から交互に巡視船を応援派遣しています。ただし、いつまでもこうした対応を取り続けることは難しいので、大型巡視船の新造やヘリ搭載型巡視船の延命工事に取り組み、大型船 14 隻相当分の専従体制の創設や増員、教育機関を充実して養成数を増やすなど警備体制の確立に向け努力しているところです。

最も離れた第一管区からも巡視船を派遣しておりますが、北海道から尖閣諸島までは片道 5 日の回航が必要であり、他の管区と比較しても負担が多くなっており、残った力で頑張るしかない状況です。

尖閣諸島の領海警備にあたる巡視船は、石垣港や那覇港を基地としていますが、尖閣には港などが整備されていないため、荒天時も避難することができず、海が時化る秋から冬にかけては、厳しい条件での警備となります。

第一管区について紹介させていただくと、「ロシアと隣接する国境管区であること」、「北海道周辺が好漁場で内外から漁船が集まること」、「厳しい自然環境であること」が特色です。

巡視船 37 隻、航空機 10 機、1,200 名で業務に当たっておりますが、厳しい気候に対応するため大型の巡視船が多く、また、守備範囲が広大なので、他の管区と比べ航空機を多く配備しています。

特に領土問題を抱える北方四島周辺海域においては、日本漁船の被拿捕、被銃撃事件が発生しないよう常に注意を払うなど、緊張することの多い管区です。

これからも北海道の海を守るため頑張りますので、皆様方のご理解やご協力をいただければ幸いです。ありがとうございました。

